

経営比較分析表（平成28年度決算）

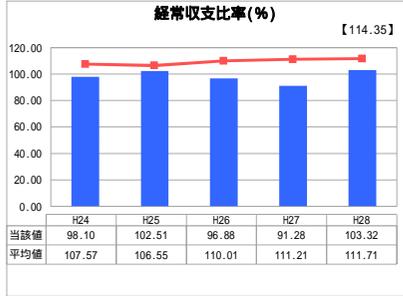
佐賀県 白石町

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A6 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 87.09 | 81.39 | 5,351 | |

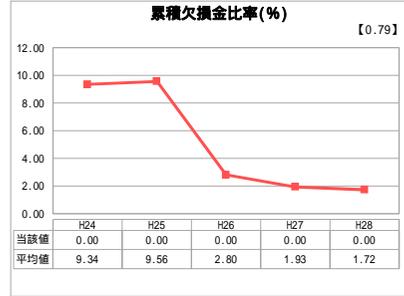
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 24,010 | 99.56 | 241.16 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 19,421 | 64.34 | 301.85 |

| グラフ凡例 |
|--------------|
| 当該団体値(当該値) |
| 類似団体平均値(平均値) |
| 【】平成28年度全国平均 |

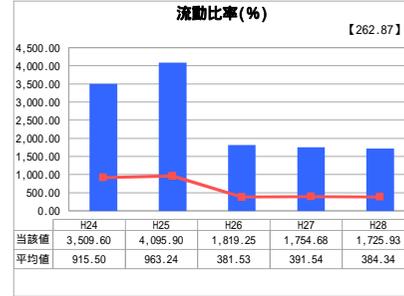
1. 経営の健全性・効率性



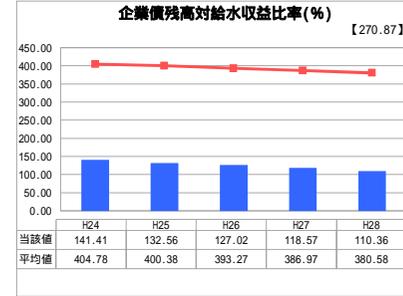
「経常損益」



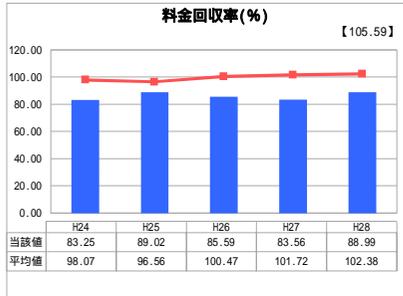
「累積欠損」



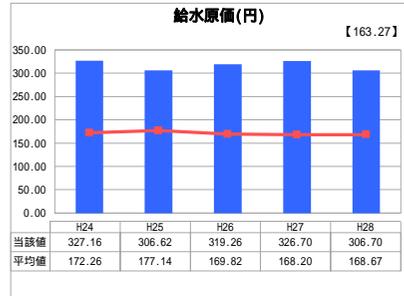
「支払能力」



「債務残高」



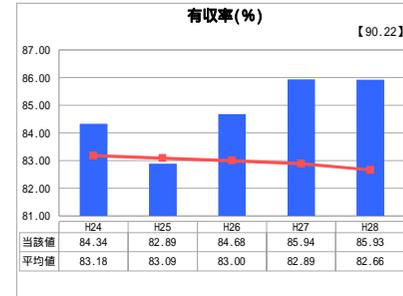
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

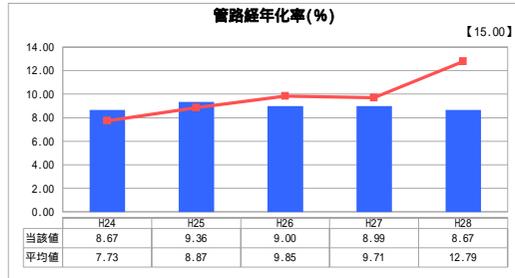


「供給した配水量の効率性」

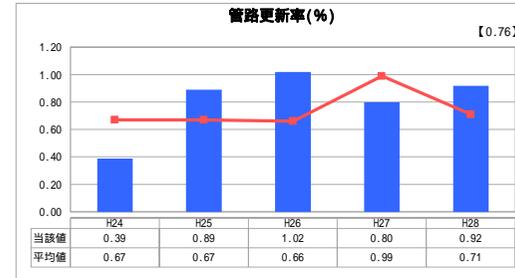
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度は経常収支比率が103%となり3年ぶりに黒字となった。今後においても給水人口の減少で給水収益が低下する中100%を維持するため、経営改善に向けた取組みが不可欠である。流動比率は1726%と高い数値であるが、管路更新事業等の整備率アップを図る必要があり、その推移を注視していくことになる。料金回収率や給水原価は若干改善しているが、佐賀西部広域水道企業団から100%受水を依存しており、給水原価が類似団体平均よりも高くなっているため、依然として厳しい状況は今後も続くと思われる。なお、普及率が81.39%と低いのは、西佐賀水道企業団給水区域があるためであり、白石町水道事業の給水区域内での普及率は99.8%となっている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体の平均値並みの数値となっている。また、管路経年化率は類似団体の平均値より低く、老朽化は進んでいないと考えられる。管路更新率は類似団体の平均をやや上回っているが、更新率1%以上を目指し整備を推進する必要がある。管路の更新については、漏水調査や道路整備等の他公共事業に会わせて実施しており、年間有収水量はほぼ横ばいではあるが、有収率は平均値より高い。

全体総括

経常収支比率が平均より低く改善が必要であるが、県内でも高い水道料金であり、同一町内で別の水道事業者との料金格差がさらに広がる事を避けるため、更なる料金の値上げは難しいと考えられる。さらに、人口減少や節水機器の普及等により水道料金収入の増加は見込めない状況である。水道料金の健全化や効率化のために、平成32年度を目標に水道事業の統合を協議しているところである。